



鶴
羽

特別
4/2
3670
1





大臣等一ノ一二一ノ一二一ノ一二一ノ一二一ノ一二一

伊勢ヤ日向乃神ノナカトノ

下二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二

極ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

道々ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

極も九州ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

言記少々ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

乃行ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

極衣ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一ノ一

一 一 一 一 一 一 一
きんじゆんくわのた—きあ—か
一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一
ト二—おほもりあまきくもぞよ
一 一 一 一 一 一 一
婚乃し—へ衷心なき我れを
一 一 一 一 一 一 一
海にみいる藤の露やもも恵よ
一 一 一 一 一 一 一
なまらあまきくせ—きよ
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
はねの—こ—ふたへあ
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
あはらあまきくあまきく
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
河をみくらう—きも是城
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
うわ殿をうけかぎのあまきく
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
あまきく—あまきくあまきく
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
人界に何と申さるるおぼしむらう
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
實に法不害の理よとて人籟乃ぬ
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
あまきくあまきく—あまきく
一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一
あまきくあまきく乃人集法はるやを
一 一 一 一 一 一 一

糸くさくさ海一 あ〜う様一や
こま物
 魁よは物か〜る〜ん 括地神
 五代乃は神一をを繫おぬふき
 あまを乃乃〜こ〜〜〜
 父のは神一は〜りを魚一
 と〜ま〜
 玉外と契〜をこめは〜り

満干は珠を〜んとわて〜ん
 たまの〜
 一のいは殿直よ假殿を造
 繫おぬりてあまい〜
 あ〜を〜
 ときをた〜
 あまをすお〜と〜

其法難す日も、
あしわ大事に、
候殿を造り、
なわ 鶴をさき、
ためし、
子早振 神乃、
こもしく、

早
も日越し、
成乃浪、
細うへて、
あしわ、
ひうさ、
言をり、
鶴乃西、
早
も日越し、
成乃浪、
細うへて、
あしわ、
ひうさ、
言をり、
鶴乃西、

手向う海まどわすむ弱必色乃
森み落葉をひろひあきしこや
ぬふよひ海ふ塩干乃遠も
折をりこわと夕暮乃月夜よ
出櫃のうけかゝりふよ
うけも志げきおハ重棟葉を
り入てふくほとふりきか

将乃世ふ原わはまこわあき
さして可く残と必を
きくもあきをむの神乃
おろわやふき残とく志りも
月のよひし新夜ふ我も出
もふりけ冬あましし神代乃
秋乃月をりこや跡めありさん

影^レ羽^レぬ^レき^レあ^レさ^レす^レお^レ福^レい^レ集
 承^レ人^レぬ^レぬ^レ干^レ珠^レ満^レ珠^レの^レたま^レお
 あり^レ久^レい^レ所^レく^レの^レほ^レと^レま^レて^レら^レう
 さん^レ人^レ干^レ珠^レ満^レ珠^レの^レたま^レ乃^レあ^レわ
 かも^レあ^レく^レま^レ人^レ海^レの^レあ^レを^レ人^レ留^レふ
 あ^レく^レ以^レ彫^レ中^レて^レぬ^レる^レな^レわ^レら^レも
 人^レ留^レり^レあ^レく^レす^レとは^レは^レら^レく^レなる^レ

神^レお^レ他^レ現^レる^レと^レう^レて^レを^レひ^レく^レん^レて
 へ^レ流^レぬ^レま^レい^レい^レ流^レぬ^レみ^レは^レう^レ然^レと
 白^レ濁^レの^レへ^レ流^レの^レ初^レい^レゆ^レた^レり^レなる^レ
 玉^レ乃^レ女^レと^レ思^レふ^レあ^レあ^レ一^レ我^レ乃^レ初^レい^レ
 我^レ言^レお^レぬ^レ又^レゆ^レた^レり^レか^レる^レた^レ言^レ乃^レ
 女^レと^レや^レい^レき^レ玉^レ婚^レか^レと^レよ^レあ^レく
 取^レり^レや^レ白^レ玉^レり^レ何^レう^レと^レ人^レの

とひー時露と冬へて清あまー
あまーぬま死まそ人乃んるめ
り流ーや海るそいあー^下
あーうきおすー必をとりけと
神まうう喉ねめととねめあ
娘いわまかわと海上よあ流了
あまうわ海上よまてあまうわ

上

娘ーまらあやいさーら
こま津けよ橋石ー風も
ううあーも時神乃告をも
待てんくハあお新女を
寶珠をさーきて夏成就志あ
御乃満于お珠を持を國お寶と
たのいあまなわ南也海初本覚

志乃乃た言 密い不欠心受乃
卷乃珠 又い急量毒法界因満
神通珠 子をかくきゆく
おかけきと山海指成の満干乃
珠々々あなれや意ありうこ也
干珠成海より志成むまこく
さゆや浪も干満とな成てよを

い波も満風よ吹く入を許て
干干満干里いきなるゆき成
志ししえまの志あり事こりわ
梅又満珠を揺干よを巻ハく
あつらへて神法風撫子もた
なもあまこ平比よ波深成
さよさくも入海るこをも

山のなの事も也すき満于珠
か程よく入る事もなしきく
能らしき人乃すくなる
心おまぬ乃珠をき法事也
法事たまと能しひも深き
一となる事もなしきく
のみくる

